

「三重県 心のノート」活用事例

校種	中学校	学年	3年	内容項目	1 - (2)
主題名	より高い目標を持ちくじけずやり抜く強い意志をもつ				
資料名	一生をかけた研究 その成果は今も生き続ける 谷川士清 「三重県 心のノート 中学校」(三重県教育委員会)				
ねらい	国語辞典を日本で最初に作った谷川士清を郷土の誇りであると思うとともに、士清の生き方を通し、より高い目標を持ちくじけずやり抜く強い意志や努力する力を養う。				
展 開	学習活動と主な発問		指導上の工夫・留意点等		
	<p>1 谷川士清の人物像(学習課題)を知る。【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国語辞典で『右』という言葉は何と説明されていると思うか？」 ・「本格的な国語辞典を日本で初めて作った人は誰だと思うか？」 三重出身、谷川士清 ・資料を読みながら、谷川士清の人物像を簡単に確認する。～時代、出身地、経歴、研究内容等～ <p>2 『和訓栞(国語辞典)』の作成や意義について理解を深める。【展開前半】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国語辞典はどうやって作るのだろう？」 ・「現代で国語辞典を作るのに、どのくらいの時間とお金がかかると思うか？」 ・「今から280年前の士清は、どのくらいの時間とお金をかけて『和訓栞(国語辞典)』辞書を作ったと思うか？」 		<ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典を提示し、自由に発言させながら、国語辞典への興味を引き出す。 『右』:南を向いた時西にあたる方(広辞苑)、大部分の人が食事の時箸を持つ側(大辞泉)、人体を対象線に沿って二分した時心臓のない方(明鏡国語辞典)、この辞書を開いた時偶数ページのある側(岩波国語辞典)、アナログ時計の1時から5時までの表示のある側(新明解国語辞典) ・三重県の学者であることを知り、本時の学習に興味を持たせる。 ・資料を読み、士清の人物像の概要をつかませる。 ・『和訓栞』の作成に焦点を絞る。 ・現代の辞書と比較し興味を持たせながら、辞書作りの大変さやその意義を考え、深める。 ①街の人々が話している言葉をすべて集める。②一定の順序に並べる。③読み方、意味、使い方の例、語源を考える。④製本する。 ある辞書は3000人の人が24年、1億円以上の費用がかかっている。 『言海』明治時代に大槻文彦が一人で17年かけて作った約4万語の辞書。『日本国語大辞典(小学館)』13巻約50万語、21万円の日本最高と言われる辞書。※『大言海』『日本国語大辞典』は図書室に有り。 ・資料を読んで士清の研究の軌跡をつかませる。 		

	<p>3 士清や周りの子孫の生き方について考える。 【展開後半】 ・「士清は何のために辞書を作ろうとしたのだろうか？」 ・「和訓栞を本にする前に亡くなった士清はどんな気持ちだったのだろうか？」 ・「士清やその子孫は、長い時間をかけ財産をなげうってまでして、あきらめずに和訓栞を完成させることができたのはなぜだろうか？」</p> <p>4 学習のふり返りとこれからの自分について考える。【終末】 ・「士清の生き方を通し、自分の今の目標やその目標達成に向けた決意を書いてみよう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな物事を成し遂げるためには目的や目標が大切であることを押さえたい。 ・[掘り起こし発問] として士清の心情を想像させる。 ・[中心発問] として様々な角度から意見を出させる。 <small>～明確な目的や目標、強い意志や努力、社会への貢献、達成感や満足感、周りの協力等～</small> ・活動を深めるために必要に応じてワークシートや班活動を用いる。 ・生徒が中3で受験を控えているため、自分の進路と重ね合わせたい。 ・時間があれば個々の意見を発表し、交流させる。
<p>他の教育活動との関連</p>	<p>国語科 第2学年 文法への扉 「用語の活用」 社会科 第2学年 江戸時代の文化</p>	